



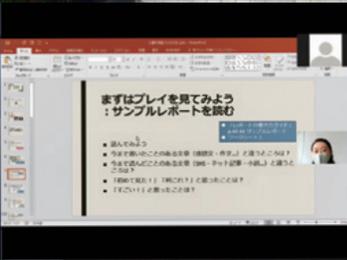
KANSAI
UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2021

vol. 36



ライティングラボの満足度99%は本当か！

教育推進部准教授 岩崎 千晶



ライティングに関する論文をちらほら見かけるようになった数年後、私はライティングラボの運営担当になりました。私の専門は教育工学で、ライティング教育が専門ではありませんでした。しかし置かれた場所で咲くことに決めている私は、文学部の先生方が作って下さった「卒論ラボ」を全学の学生に向けたライティングラボとして学習支援を提供するために尽力しようと決めました。その頃から、文学部教授で現教育推進部副部長である中澤務教授と共にライティングラボに関わっています。

現在ライティングラボでは、個別のライティング相談、ワンポイント講座、出張講座、ライティングの教材の提供を4本柱にして活動しています。これまでに、ライティングに関するeラーニング教材の開発、スポーツ・フロンティア入試で入学した学生の指導、オンラインチュータリング、一昨年度からは高大接続にも力を入れ、併設校での

ライティング講座を実施しています。そして、今年度は修士課程向けのワンポイント講座の実施を企画しています。

しかし、個別のライティング相談件数は年間900件程度にとどまっています。もっともっと学生が利用して書く力を高めて欲しいと、ラボの運営者としては願っています。そこで先生方にもお願いがあります。

ぜひライティングラボの利用を学生に勧めてください。「先生から勧められて来ました」とラボを訪問する学生の数は多く、やはり教員の誘導力は強い効果があります。その後学生は自主的にラボを利用しています。

ラボの存在を認知していても、積極的にラボを利用しない学生もいます。その理由として次の2点が挙げられます。「①知らない人にレポートを見てもらうのが恥ずかしい」「②レポートに改善すべき点があるとは思っていない」ということです。①に関しては、初対面のチューターに自分の文章を読

んでもらうことに恥ずかしさを感じることはあると思います。しかしチューターは年6回の研修を受けチュータリングの質を上げる努力をしています。安心して来訪するように学生に伝えてください。②に関しては、学生が考えるレポートの課題と、チューターが考える課題には差があります。つまり、学生だけでは気づけていないレポートの課題があります。ラボでは学生自身がその課題に気が付くことを支援しています。学生が自分の課題を自ら発見し自律的な書き手を育てるために、ぜひライティングラボの利用をお勧めください。

さて、最後になりましたが、利用者アンケートの結果から、ライティングラボの利用者満足度99%であることがわかっています。これは何よりチューターとライティングラボの教職員のおかげです。利用者満足度が果たして本当か!ぜひライティングラボをご利用になった学生から確認してみてください。

教学IRプロジェクト報告

3大学(法政・明治・関西大学)合同IRフォーラムを開催しました

日程：2021年3月6日(土)

教学IRプロジェクトは、3月6日(土)に3大学(法政・明治・関西大学)合同IRフォーラムをオンラインで開催しました。コロナ禍での大学教育の在り方について、変革や工夫が求められた2020年度、多くの大学は、学生の実態把握や教育改善の観点から調査を実施しました。本フォーラムでは、それらの調査結果から見えてきた課題に対して、前半は3大学の教職員がそれぞれ話題提供をしたのち、パネルディスカッション形式で意見交換が行われました。後半は、「コロナ禍における学生調査の結果から今後の大学教育を考える」をテーマに、複数のグループに分かれてワークショップ(Googleスライドを活用)を実施しました。各グループからは、「求められる大学教育は、授業の在り方だけではなく人格形成にも影響があり、コロナ禍で得た知見を生かすことが

必要」、「この先の教育の実現に向けて、多くの解決すべき課題を最終的にどのように評価するのか」、「これまで行ってきたことの失敗事例の共有も大事」といった意見が出るなど、活発な議論が交わされました。

最後に、閉会の挨拶として大津留智恵子先生(関西大学副学長)が「これまでもあった問題が、遠隔を経験することで顕在化した。それらにどのように対応すべきかなど、コロナ禍はさまざまなことを考える良い機会となった側面もある。また、大学教育は学問的な側面だけではなく、人間的な成長の側面もある。そういった多くのことを考えることができた今回のフォー

ラムは、今後も続けていきたい」と締めくくりました。

なお、本フォーラムには、全国から230名を超える教職員が参加し、事後アンケート(回答者137名)の総合満足度は4.57(とても満足+ある程度満足で134名)と非常に高いものでした。

(教育推進部教授 山田剛史)



パネルディスカッションの様子

入学時調査を実施しました

教学IRプロジェクトは2021年度の本学入学生(6701名)を対象として、入学時調査を実施しました。入学時調査はすべて記名式で、ウェブ上で回答を求めました。回収率は95.2%であり、例年と同様に高い回収率となりました。調査にご協力いただき、ありがとうございます。現在、全

学の集計資料と、学部ごとの集計資料の作成を進めています。また、単純な集計資料だけではなく、入学時調査の回答データと種々の学事データを組み合わせた分析も学部の要望に合わせて準備し、2020年度卒業時調査の結果と合わせて、順次、学部ごとに教授会や執行部会にて

報告と説明をさせていただきます。入学時調査によって得られたデータに基づいて本学の学生の特徴を明らかにし、在学中の学生の学習成果を可視化するために、また、教育活動の改善の方向性を探るためにデータを活用していきます。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也)

活動報告

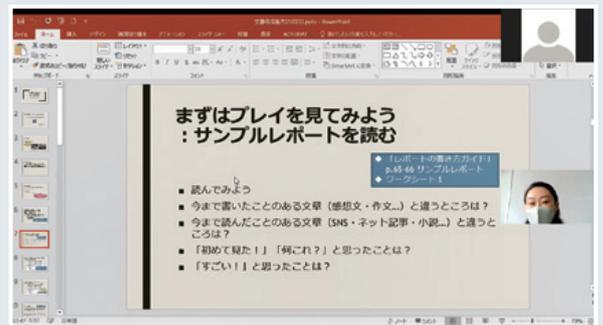
スポーツ・フロンティア(SF)入試入学者を対象に「文書作成能力向上講習会」を実施しました

日程：2021年3月30日(火)、3月31日(水)

レポート等今後必要とされる文書作成能力の向上を目的として、スポーツ・フロンティア(SF)入試入学者115名を対象に「文書作成能力向上講習会」を実施しました。Zoomおよび通信環境等が整わない学生の対応として対面も併用して行いました。事後アンケートでは、92.2%の学生が「わかりやすかった」、99.3%の学生が「今後の役に立ちそう」と答え、「自分で考える時間が設けられていたことでレポ

トへの理解を深めることができました」ライティングラボを利用して、レポートなどに役立てていきたいです」などの感想もありました。引き続き春学期・秋学期にも実施していきます。

(教育推進部特別任用助教 藤田里実)



藤田里実による講習会の様子

活動報告

学生ラーニングcaféを実施しました

日程：2021年5月12日(水)、5月19日(水)

春学期のラーニングcaféでは、第1回「自分を客観視しよう!」、第2回「自分の印象をメンテナンスしよう」を実施しました。

本年度初回のラーニングcaféは、自己理解をテーマに設定し、第1回ではコンセンサスゲームを通して、第2回では絵で自分を表現するワークを通して、自分の考える自己像と相手から見た自己像の違いについて、参加者同士で意見交換をしました。

昨年度に引き続きオンラインでの実施ということで、LAもオンラインを利用したワークの運営方法にも慣れ、参加者からは「周りから見た自分を知れる非常に良い機会だった」「将来的に役立つ」といった感想をいただきました。

(教育開発支援センター アドバイザリースタッフ
佐藤栄晃)



ラーニングカフェの様子

ラーニング・アシスタント(LA)の感想

今回私ははじめてラーニングcaféに参加し、企画をしました。今回のcaféでは、「もし、砂漠で遭難したら」というワークを活用し、そのワークを通して自分の性格を改めて見つめ直すことができましたと思います。参加者の皆さんが、Zoomという環境でも話し合いをスムーズに進められていたので良かったです。今回の反省点としては、内容が

いっぱい余談の時間を取ることができず、参加者の方とお話することができなかったことです。また参加することができたら、今回の良かったことや反省点を意識し、また楽しいcaféを企画したいです。

(文学部3年 姫野美咲)

今回のワークは既存のものを組み立てるのではなくゼロからの作成になりました。チームで新しい取り組みを進めるという機会は普段の授業では得ることができないものです。社会では自分一人で解決し得ないことが多く

なってくると考えるとこの経験は貴重でした。今後の取り組みでも“チームで創る”ことは意識していきたいと思っています。

(システム理工学部3年 加藤 駿)

コンシェルジュカウンターを開設しました

日程：2021年4月5日(月)～15日(木)

教育開発支援センターでは、4月5日(月)～15日(木)の期間、千里山キャンパス第2学舎1号館の教務センター前「KITENE」で「コンシェルジュカウンター」を設置しました。本取組は、2020年10月～2021年1月に教育開発支援センターが実施したFD・SD研修を修了した入職2年目の若手職員がコンシェルジュとなり、主に新入生の様々な不安や悩みに対してアドバイスをを行うことで、今後の学生生活に期待を持ってもらうことを目的に実施しました。

約2週間で200件を超える相談があり、相談した学生からは「履修登録や遠

隔授業について不明点がありましたが、わかりやすく丁寧に教えてもらい大変助かりました」との声をいただきました。一方、対応する職員にとっても、大学で働くことの意義や、働く上で必要となる傾聴力・提案力を養える場になったとの評価をいただきました。

今後も教育開発支援センターでは、コロナ禍により孤立しがちな学生を全力でサポートし

ていきたいと思っています。

(教育開発支援室 土井健嗣)



学生対応の様子

新任教職員紹介

教育開発支援センター



ライティングラボ アカデミック・アドバイザー
大西 洋

この4月に、ライティングラボにアカデミック・アドバイザーとして着任しました。前職は高校の講師で、情報科や総合的な探究の時間を通して、ライティングに関わってきました。現状では、論文の作成や発表などの探究活動を実施し、推薦入試で実績を上げている高校も多い一方で、まだ新課程の授業内容を検討している

最中の学校も多く、ライティングの技術を学ぶ機会がなかった学生さんもいます。ライティングはセンスではなく知識と技能ですので、基本を理解すれば誰もが一定の文章を作れるようになります。ライティングラボの各種の活動で、さまざまな学生さんの受け皿になればと思います。

教育開発支援センターからのお知らせ

レポートの書き方ガイドを改訂、プレゼンの作り方ガイドを作成しました

ライティングラボではこの度、2020年に発行した「レポートの書き方ガイド」を改訂しました。また新たに「プレゼンの作り方ガイド」を発行しました。どちらも「自分の考えをわかりやすく表現する」という重要な学びのスキルを養うための冊子です。PDFファイルは関大LMSのライティングコース「ライティング力を高めて、いいレポート・卒論を書こう!」からダウンロード可能です。冊子体は各ラボまたはラボ事務局（尚文館3階）で配布中です。ぜひご活用下さい。

(教育推進部特別任用助教 藤田里実)



From CTL事務局

私は今春、奨学金を扱う部署から CTL に異動してきた。まず驚いたのが、学生と教員、職員が密接に関わり、まさに”協働”していることである。教育の質向上のためには、三者それぞれの視点が不可欠であるため、このような恵まれた環境に

身を置くことに率直に喜びを感じた。新型コロナウイルス感染症の流行により教育環境は一変してしまったが、決して失ったことばかりではないと捉えている。例えば、遠隔授業の実施について、教育分野におけるデジタル化を半ば強制的ではあるが急速に推し進める結果となった。とは言っても、平穏な社会情勢・

諸活動の再開、そして何より、学生で活気あふれるキャンパスにいち早く戻るよう願うことに変わりはない。多様な学生を擁する大学として重要な局面を迎えた今、この部署に配属されたことに自覚と責任をもって学生のために努力していきたいと思う。

(歩)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514
www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2021年6月24日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター